
才悩人応援歌

カトベリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

才悩人応援歌

【Nコード】

N6739G

【作者名】

カトベリス

【あらすじ】

高校生の少女のお話。BUMPOFCHICKENの才悩人応援歌をイメージしました。

(前書き)

この物語は作者のイメージで書いてあります。読者様のイメージと違うところもあると思いますが、「こんなイメージもあるんだ」というカンジで読んでいただけると幸いです。駄文ですので、覚悟してから読んでください。

得意なコトはバレーボールだった。

ずっと、そのコトを忘れていた。

なんで忘れてたんだっけ……？

そうだ。あれは中学の体育でやったバレーボールの試合のときだ。

私はバレーボール部のエースで、クラスで一番バレーボールができていた。

ある日の体育……。

バレーの試合をやった。

いつもと変わらなかった。

相手チームに転校生がいるというコト以外は。

同じチームの人がトスをあげて、私がアタックをした。
いつもなら、私たちのチームが1点を取っていた。

でも、転校生が受けて、こちらに返してきた。

何回やっても返された。

逆に転校生が打ってきたとき、打ち返すコトができなかった。

その日、私の

「バレー1番」の称号は、転校生に奪われた。

転校生と試合するまで、私は、世界は頑張れば自分のモノにできる
って思っていた。

でも、よくわかった。

自分のための世界じゃないって。

今日は球技大会。

種目はバレー。

あのコとは違うチーム。最初に戦うチームにあのコがいる。

気が進まない。

休んじゃおうかな？

別に問題ないでしょ？

1人くらい寝てたって。

あの日からの生活は、

得意なコトもなくなり、平凡なモノになった。

でも、困難なコトも多い。

そんな生活が、
継続されている。

今日、球技大会に参加しても、何も変わらない。

私への声援は、あのコのモノ。
脚光なんて尚更。

私はもう、期待されるような人間じゃない。

くく

ケータイが鳴った。

私が好きなの曲の1つ。

私は唄った。

「唇からこぼれ落ちた
ラララ」

彼女は知らなかった。

同じチームの人達が、
彼女を期待しているコトを……。

(後書き)

この後、彼女が球技大会に参加したかは、読者様の想像にお任せします。読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6739g/>

才悩人応援歌

2010年10月21日22時02分発行